

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600020		
法人名	社会医療法人輝城会		
事業所名	みんなの家なかんじょ		
所在地	群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町967		
自己評価作成日	2022/10/31	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みんなの家なかんじょの基本理念は以下の4つを定め、日々利用者様の支援を行わせていただいています。
 ・その人の思いを大切に、その人らしく生きる姿を支え続けます
 ・その人ができることに着目し、活躍の場を提供します
 ・医療機関との連携を図り、健康管理に十分配慮します
 ・自然にふれあい、地域社会の中での交流を大切にします
 中でも特に、利用者様一人一人が、その人らしく活躍できるよう、日々の活動支援に努めています。また、利用者様の体調変化に対しては、系列医療機関と連携を取り、迅速な対応を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の生活体験をもとに、皮むきやモップかけなどの家事を事業所での生活の中でも継続できるようにしている。そうしたなか、食事づくりは利用者が参加したものとされており、ユニットごとに異なる手作りの食事が提供されている。あわせて、職員は利用者との会話などを通して、出かけた際に利用者の自宅前を通ったり、不安を取り除く支援をしたりして、思いに寄り添うケアを行っており、困難事例に対しても職員間での利用者の視点にたった検討のもとで、試行錯誤が重ねられている。コロナ禍で、地域との人的交流がままならないなか、地域、季節を感じてもらえるようドライブが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員全員が事業所の理念をよく理解し、理念に沿った支援を心がけている。	理念である「その人らしく生きる姿」を支えるために、利用者のできることに着目して、現在の利用者においてはモップかけなど家事を通して役割を担ってもらうことで、理念に向けた実践に努めている。理念に向けた実践の振り返りは、会議で行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・以前は地域の方々との交流も数多く行っていたが、新型コロナウイルス感染症流行の影響もあり、現在はできていない。	コロナ禍において地域における人的交流が難しいなかで、近隣への散歩を通して利用者が地域を感じてもらおう機会にしたいと考えている。今後も地域の商店などを活用して、利用者が交流できる機会作りをしていきたい考えである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・近場を散歩したり、近隣の床屋などを利用した際は認知症のケアを実践している様子を見ていただいたりする機会はあるが、認知症の理解を深めるような取り組みはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・新型コロナウイルス感染症流行の為、運営推進会議は実施できていない。書面は作成し、町との情報交換は行っている。	運営推進会議は書面で、利用者や活動状況を、町へ報告している。運営推進会議のメンバーである区長、民生委員、家族への報告は行われておらず、今後の開催について模索している。	会議開催はできなくとも、構成員(メンバー)への意見聴取など何らかの働きかけを行い、事業所運営への協力関係の継続に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・書類提出等で担当係を訪問した際に情報交換を行っている。	町には、利用者の空き状況や報告義務の範囲に適切な報告を行い、情報の収集や現状理解につながるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・利用者様の安全面を考慮しながら、できるだけ身体拘束を行わないケアを実践している。入り口の施錠に関しては、利用者様の安全確保のために施錠する形を取っている。	利用者が外に出してしまう場合には、ともに行動をし、気分転換が図れるような声掛けを施して不安を取り除く支援をしている。居心地よい環境づくりが、利用者の危険回避や安心した生活につながると考え、その人の思いの検討に努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・定期的に虐待防止のための研修を実施し、虐待や身体拘束に関する正しい知識を持ち、日々のケアの確認を行っている。利用者の内出血や表皮剥離などを発見した際は、職員間で情報共有を行い、再発防止策を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・権利擁護に関する知識不足が不十分と感じている職員もいるため、今後研修等も検討していく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約や改定の際は、施設を見学してもらったり、パンフレットや重要事項説明書を通して、サービスについて説明をしている。 ・控えの書類も利用者様や家族に渡し、不明なことがあればその都度質問を下さるようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時等に要望や意見を聞かせていただいで、サービスに反映できるように心がけている。	利用者が食事をとれないなどの時には家族に、好きな食べ物を再度聞くなど家族意見を求めている。同一敷地内の家族の意見ではあるが、風呂場についての意見をもとに、家族の協力で手入れをした事例もあり、家族とともに運営する姿勢がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月リーダー会議や、各ユニットの会議を開催し、それぞれの意見や提案を共有し、より良いサービスの提供、職場環境の構築に反映できるよう努めている。	管理者は、職員意見の夜勤時の不安を聞いて、2階、3階構造のためカメラ設置を図り、不安に応えている。会議では、勤務調整、休暇取得の希望に合う検討が行われている。話しやすい関係づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年2回、前職員対象の人事考課表を作成し、自己評価、上司評価を行い勤務状況の把握を行っている。 ・人事考課を元に面談やボーナス支給、昇給等の判断を行い各自が向上心をもって働ける環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・個々の能力に合った研修の提案や、勉強会を実施し、職員育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・コロナ禍ということもあり、外部の同業者との交流機会は設けることができていない。 感染状況に注意して、法人内の施設との交流や見学機会は設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居時に可能な限りご本人の要望を伺い、信頼関係を築けるようにしている。 ・得られた情報については、職員間で情報共有し、すぐに対応できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居時にご家族からの要望も確認し、ご本人の状況も踏まえ、対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居申し込みの段階から、利用者様の状態を確認、グループホームでの生活が可能な状態にあるか確認している。他のサービスの適応もあると考えられた場合は、その提案をさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・介護者の視線だけでなく、家庭の延長で暮らしを共にするという視点を持つように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族への近況報告の手紙を送っている。また、何かあればその都度連絡をしたりと、共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・コロナ禍の為、このような機会は減ってしまっただが、感染状況に応じた感染対策を行いながら、面会の案内を行っている。 ・ドライブ等の外出で利用者様の自宅の近くを通る際は、家の前を通るなどしている。	併設するデイサービス利用者との交流も図れるため、利用者は同級生との再会がある。また、自宅前を通るなどの機会には、会話を広げて支援に繋げている。今後はそうした実践のねらいを明確にしてその結果を検証して、次につなげたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の関係性を職員全員で把握し、トラブルがあっても大きな問題に発展しないよう、席順に配慮したり、間に入る等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所時に、ご本人・ご家族に心配なことがないように退所後の環境に配慮している。 ・退所された利用者様とは基本的には連絡を取っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・計画書作成時に、ご本人・ご家族の意向や思いを伺うようにしている。 ・聞き取りが困難な場合は、生活歴等の情報から本人の思いを汲み取るようにしている。	これまでの体験をもとに生活の中にその作業を落とし込むことで「その人らしい姿」の実現に努め、家事などの得意分野の役割につなげている。言葉から思いが把握できない場合には、職員でこうかもしれないと検討を重ね、試行錯誤しながら対応を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前に担当ケアマネジャーから情報を収集している。入居時、入居後もご本人や家族から情報を収集し、職員間で情報共有を行い、生活歴に合わせた支援ができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・心身状況や、有する能力等、定期的なアセスメントやモニタリングの中で実施し、個人の状態把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月のユニットごとのカンファレンスでモニタリングを行っている。変化があった場合は必要に応じて介護計画へ反映させている。	リーダー会議にケアマネジャーも出席し、利用者の状態把握に努め、介護計画の作成をしている。毎月職員会議が行われ、3ヶ月毎にモニタリングをしている。利用者の意向、家族の意向、ケアの方法を検討されている。ケアマネジャーが行う課題分析についての検討に繋がらない事例がある。	課題分析を行うことにより、介護計画における目標が明確になり、そのための実践に繋がられるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の生活の中で変化があった場合は経過記録に記載したり、状況に応じて申し送りノートに記載するなど、情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・様々なニーズに対応し、共用型認知症対応型通所介護や、短期利用認知症対応型共同生活介護等も柔軟に受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・一人一人の能力に応じて、安全で豊かな暮らしができるよう、社会資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医は、入居時に系列医療機関への変更を希望される方もいるが、疾患やご本人・ご家族の希望に応じて、納得が得られたかかりつけ医にて、医療を受けられるように支援を行っている。	事業所の往診などの医療体制を説明する中で、これまでのかかりつけ医の受診を継続するかを選択できるようにしている。事業所の協力医療機関は法人の関連施設であり、何でも相談できる体制がある。合わせて週1回看護師の訪問もあり、体調管理が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護師は吾妻脳神経外科循環器科の看護師と業務委託契約を結び、24時間連絡がとれる体制をとっている。また、担当看護師に、週に1回程度施設に訪問してもらい、利用者様の体調確認や職員との情報交換を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・利用者が入院された際は、入院先の相談員に施設での状況や、入院に至った経緯などの情報提供を行っている。入院中の経過についても、定期的に確認し、ご本人にとってより良い場所で療養できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時や状態変化時は重度化した場合や終末期のあり方について、施設としてできることを十分に説明を行っている。	入居時と重度化した場合に、点滴、経管栄養など常時医療が必要な状態になったら事業所での生活が困難であることを医師から説明をしている。そのため、その後の施設への移動などにも相談にのっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時のマニュアルを準備し、職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に2回、火災や風水害を想定した避難訓練を実施している。非常食や水分など、利用者様と職員の3日分の量を想定し、準備している。	火災等を想定した避難訓練を行っている。訓練をした経験を活かして、2階、3階から避難する場合には、避難用スロープに布団を敷いて実施するなど、実践へとつなげている。今後は地域住民へも働きかけを行い、協力体制を築きたい考えがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・不適切な言葉遣いにならないよう注意している。その人の性格や、生活歴、認知症の症状などに合わせて理解していただきやすい声掛けを意識している。	生活の場なので、互いに通じやすい親しみやすい言葉を使いながらも丁寧に、利用者と介護者の立場を頭に入れた対応を行うように注意をしている。その人その人が大切にしているものを、大事にしたい考えとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・食べたいものや、行きたい場所など、利用者さんの話を聞きながら、日常や行事等の中で可能な限り応えられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・レクリエーション等でその日になにがしたいか希望を聞いて、取り入れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・何を着るかは主にご本人に決めていただくが、季節に合わない服を選んだ時は助言するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者様の好みを把握し、可能な限り献立に反映できるようにしている。出来る作業は一緒に行っていただいている。	食事は、例えばカレーでは利用者が材料の皮むきなど家事の経験を活かして準備してくれるなど、そうした機会作りを提供して食への興味に繋げている。好き嫌いを把握する中でユニットごとに異なる食事が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事、水分の摂取量は、その都度記録し、適切な量を摂取できているか確認している。食事や水分が十分にとれていない場合は、食形態変更や受診等の状態に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食後は口腔ケアの声掛けを行っている。できない方は、職員が介助している。 ・夜間は義歯をポリドントにて消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄確認表で、排泄状況を確認し、なるべく失禁を減らすことができるよう、声掛けや誘導を行っている。	トイレでの排泄の状況(有無)を利用者に確認したり、状況を把握したりして、排泄チェックを記録し確認としている。失禁を減らす努力をしている。	排泄における課題について、ADL(日常生活動作)及び精神面からアプローチ(考察)するなど、一人ひとりの自立に向けた支援の検討に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘の原因や及ぼす影響を考え、飲食物の工夫や運動量を増やせるような工夫を行っている。改善がみられない場合は、看護師と相談し対策を一緒に考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴を楽しんでいただけるよう、毎回入浴剤を変えている。	入浴は、ゆったりくつろげる時間であるようにしたいと考えている。嫌がる場合には、声掛けを工夫して対応しており、そうした成功事例を職員が共有できるようにと考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・昼夜逆転にならないように、日中の活動量を調節している。疲労が見られた場合は、居室で休んでいただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の変更や追加があった際は、書類にて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・洗濯物や掃除、調理など一緒にできることを行ってもらい、利用者様一人一人が役割を持ち、張り合いや喜びのある日々が送れるように支援している。気分転換にドライブに行くこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・コロナ禍ということもあり、外出機会が減ってしまっている。感染対策上、飲食を伴うような外出希望が受けにくい状況。	コロナ禍であるが、花見などの外出の他、バーベキューをしたり、畑仕事をしたりして、外気にあたる機会づくりをしている。居住スペースが2階、3階にあるため、外の眺めや別のフロアに来ることも気分転換になることを意識して、支援にあたっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご家族に協力してもらい、ご本人が自由に使えるお金をお小遣いという名目で確保している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族やご友人から手紙が届いた際は、ご本人に届けている。 ・電話に関しても、希望があればその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・部屋の温度は、温度計を確認し、常時適温になるようにしている。状況に応じて利用者様に確認しながら温度や光の調節を行っている。 ・利用者さんと一緒に、季節に合わせた飾りつけを実施している。	設備面では感染対策にも考慮して空調設備の入れ替えをするなど、快適な環境づくりに努めている。季節ごとに花火などの景色になるものを工夫して飾り、季節を感じられるようにしている。死角になっている空間の安全管理にも注意をはらいながら、利用者が自由に暮らせる空間づくりを模索している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・利用者様一人一人が快適に過ごせるように、席順の変更や家具の配置を行っている。 ・気の合う利用者様同士で部屋で会話を楽しまれることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で使用していたタンスや、布団、テレビなど、ご本人が居心地よく過ごせるように、ご本人、ご家族、職員で相談しながら居室の環境を整えている。	居室は、職員が整理整頓を行い、気持ちよく過ごすことができるようにしている。利用者の状態に合わせて、タンスの中身を適度に調整するなど、利用者がしたいことができるように配慮している。転倒などにも考慮して、ベットを布団に変えた事例もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・利用者様のできることに目を向けて活動を支援し、生活の中で自信を持っていただきながら、安全で活動的に生活が送れるように支援している。		